

■宇田川榛斎(玄真)
うだがわしんさい
・・・・・・・・1769=

蘭学者。オランダの医学書の翻訳に生涯、緒方洪庵・箕作阮甫ら俊秀を多数育成。

生。伊勢国飯南郡大石村安岡四郎衛門の子。

田沼意次老中1772= 3歳 :

出府して_宇田川玄隨に師事して漢方医学を学び、

ワシ船蝦夷来 1778= 9歳 :

源内獄中死・1779=10歳 : _蘭方に転じた玄隨の勧めで大槻玄沢・桂川甫周に蘭学を学ぶ。

_杉田玄白の養子となったが、放蕩に走って、離縁され、

田沼意次失脚1786=17歳 :

寛政改革始・1787=18歳 :

ワスマン来日・ 1792=23歳 :

_この年から日本最初の蘭日辞書「波留麻和解」編纂に取り組み始めた稲村三伯らに誘われ、この訳述に参加して、糊口をしのぎ、学業を発展させるうち、

松平定信引退1793=24歳 :

プロト航来航・ 1796=27歳 :

この年「波留麻和解」が完成、

昌平饗始・ 1797=28歳 :

_玄隨が死去すると、

古事記伝・ 1798=29歳 :

_三伯が自分の弟扱いで玄真を宇田川家の相続者としてくれて、津山藩医に列し、

期待に応え、

_解剖学書を多数翻訳して書き留めた「遠西医範」30巻を編み、

青洲麻酔手術1805=36歳 :

*それを整理要約した「和蘭内景医範提綱」3巻を刊行、玄白らの「解体新書」より平易かつ消化された解剖学・病理学書として、高く評価される。

フェトン号事件 1808=39歳 :

金沢へ前藩主を往診。_とくに付図として別途刊行の亜欧堂田善刻の「内象銅版図」は本邦初の銅版解剖図として評判となる。腺・腺などの訳語を確立した功績も忘れられない。

間宮海峡発見1809=40歳 :

再び金沢へ前藩主を往診、

・・・・・・・・1810=41歳 :

三度金沢へ前藩主を往診したり、診療にも従事したが、晩年は専ら訳述に没頭した。

浮世床・ 1813=44歳 :

*幕府天文方蕃書和解御用を命じられ、(シヨメールの百科全書)「厚生新編」の訳述に努め、

黒住教・ 1814=45歳 :

続いて西洋薬学を研究、

水野忠成老中1818=49歳 :

群書類従刊・ 1819=50歳 :

*わが国最初の薬学書というべき「和蘭薬鏡」3巻の刊行、

英船浦賀来航1822=53歳 :

続いて_「遠西医方名物考」の刊行開始、

シボム来日・ 1823=54歳 :

異国船打払令1825=56歳 :

養父玄隨の著作を増訂し、_「増補重訂内科撰要」18巻を刊行。

シボム事件・ 1828=59歳 :

養子宇田川椿蓄とともに_「新訂増補和蘭薬鏡」8巻18冊も出版。

痔疾に悩み老衰を迎えて、

富嶽三十六景1831=62歳 :

*隠居して深川に転居後は、信道門下の緒方洪庵に看取られ、

鼠小僧磔・ 1832=63歳 :

高島砲術・ 1834=65歳 :

_「遠西医方名物考」36巻「同補遺」9巻刊行終了とともに、没した。

飯沼慾斎・坪井信道・戸塚静海・藤井方亭・箕作阮甫らは玄真の指導を受けた蘭学者である。